

【藤島地域】 庄内農業高等学校地域連携事業 (庄農うどん大作戦)

【事業年度：R1～】

取組みの背景や経緯

■取組みの背景

庄内農業高等学校は藤島地域の中心部に位置し、令和3年には創立120周年を迎えた。長年地域に愛されてきたが、少子化や人口減少で地域の活力が減退する中、同校においても入学者の減少が続いている。

■取組みの経緯

地域ぐるみで同校の取組みを応援し高校生のパワーを地域活性化に繋げようと、平成25年度に庄内農業高等学校地域連携協議会を立ち上げた。地域と学校が連携してソフト事業に取り組んでいる。

事業目的

- 庄内農業高等学校の魅力の向上と入学者数の増加
- 農業後継者の育成、食産業の継承と担い手の増加
- 庄農生の取組みを核とした地域の活性化

事業概要

庄内農業高等学校地域連携協議会では5つの事業に取り組んでいる。

- ①ユネスコ食文化創造都市鶴岡の魅力体験（在来野菜の栽培や食育体験）
- ②農業の成長産業・6次産業化の支援（農産加工品の開発）
- ③庄農うどん大作戦活動（庄農うどんを活用した地域の活性化）
- ④農・福連携地域交流農園整備（高齢者や障害者等との交流）
- ⑤農業コンテスト出品等PR活動

事業紹介「庄農うどん大作戦」について

庄農うどん大作戦は高校生が実習で製造するうどんに着目し地域の名物にしようと取り組んできた。当初イベントでの直接販売に留まっていた「幻のうどん」を、出羽商工会や地元飲食店と連携し、令和元年から期間限定で飲食店でのメニュー提供をスタート。令和4年2月には事業に取り組む「うどん部」が「輝く県民活躍大賞」を受賞した。

■事業効果

令和4年度は9店舗で2,175食の庄農うどんを提供し、地域の活性化に貢献している。また、生徒がチラシやPOP作成、メニュー開発、接客などを出羽商工会や飲食店と一緒に取り組むことで学びが深まっている。

■今後の展望

生徒が地域と一緒に活動することで、学校の魅力発信と地域活性化に繋がりたい。



堀井玲月さん（3年・上写真右から二人目）が日本学校農業クラブ全国大会で優秀賞を獲得。庄農うどん大作戦での経験を「見つけた！私の道～喜びへ渡す懸け橋～」として発表した。